

りんご

両手をどんなに
大きく大きく
ひろげても
かかえきれないこの氣持
林檎が一つ
日あたりどころがつてゐる

赤い林檎

林檎をしみじみみてゐると
だんだん自分も林檎になる

おなじく

ほら、ころがつた

赤い林檎がころがつた
な！

嘘嘘嘘

その嘘がいいちやないか

おなじく

おや、おや

ほんとにころげでた

地震だ

地震だ

赤い林檎が逃げだした
りんどだつて

地震はきらひなんだようきつと

おなじく

林檎はどこにをかれても
うれしそうにまつ赤で
ころころと
ころがされても
怒りもせず
うれしさに

いよいよ

まつ赤に光りだす
それがさびしい

おなじく

娘達よ

さあ、にらめつこをしてごらん
このまつ赤な林檎と

おなじく

くちつけ
くちつけ
林檎をおそれろ
林檎にほれろ

おなじく

こどもよ
こどもよ
赤い林檎をたべたら
お美味^がかつたと
いつてやりな

おなじく

どうしたらこれが憎めるか
このまつ赤な林檎が……

おなじく

林檎はびくともしやしない
そのままくさつてしまへばとて

おなじく

ふみつぶされたら
ふみつぶされたところで
光つてゐる林檎さ

おなじく

こどもはいふ
赤い林檎のゆめをみた
いいゆめをみたもんだな
ほんとにいい
いつまでも
わすれないがいいよ

大人おとなになつてしまへば
もう二どと
そんないい夢は見られないんだ

おなじく

りんごあげよう
轉がせ
子どもよ
おまへころころ
林檎もころころ

おなじく

さびしい林檎と
遊んでおやり

おう、おう、よい子

おなじく

林檎といつしよに
ねんねしたからだよ
それで
わたしの頬つぺも
すこし赤くなつたの
きつと、そうだよ

店頭にて

おう、おう、おう

ならんだ

ならんだ

日に焼けた

聖フランシス様のお顔が

ずらりとならんだ

綺麗に列んだ

おなじく

錢で賣買されるには
あんまりにうつくしすぎる
店のおかみさん
こんなまつ赤な林檎だ
見も知らない人なんか
賣つてやりたくなくはありませんか

おなじく

いいお天気ですなあ
とまた
しばらくでしたなあ
おやどこだらう
たしかにいまのは
榎桶まろの聲だつたが……

大正十三年十二月二十四日印刷
大正十四年一月一日發行

詩集 雲
定價壹圓八拾錢

著者 山村暮鳥

發行所 高井能

東京市牛込區
山伏町十四

イデア書院

振替東京一五四二三番
電話牛込 三六五六番

發賣元

東京慶文堂 名古屋川瀬書店
大阪金正堂 久留米菊竹書店

大 杉 印 刷 所

一、弊院の理想とその一切の純益は「教育の王國」實現のためにささげるのであります。

一、弊院は主として教育・哲學・藝術・道徳・宗教及び兒童讀物に關するものを出版いたします。

一、小西重直先生を顧問とし小原國芳氏指導の下に其恩師先輩學友の作品を主として出版いたします。學界のために責任を重んじ、權威あるものにあらざれば出版いたしません。

一、落丁その他不備の點につきましては一切その責に任じます。

東京 イデア書院

7-2282

5 22

538

3

終

